

# 報 會 部 女 性 教 會 デ サ ウ

2012年 3 月 N° 272

神は正しい者にむかい、  
心の清い者にむかつて、  
まことに恵みふかい。 詩73:1  
本年の女性部の御言

目 次	
● 巻頭言 「心が燃えた」	丹羽昭男
● 「初めての祈り」	原田泰子
● 「新年に戴いた御言」	沢里利代子
● 「勘違いだった受洗日」	白井信子
● 「主よ・お任せします」	向高悦子
● 俳句	益本藤子 白井美恵
● おたより	松井明子
● 「こんには・赤ちゃん」	吉崎靖子
● 集会の紹介	丹羽美香
● 天国への招待 その一	滝本 明
● 個人消息・報告	
● 編集後記	

# 巻頭言

牧師 丹羽 昭 男

「心こころが燃もえた」(ルカ24章13-34節)

## 〔1〕 序じよ論ろん

まもなくパスコア(復活祭)を迎むかえる。

主イエスは復活ふっかつされ、今も生きておられる。

主イエスが十字架じゆうじかに架かけられることによって救すくい

の御業みわざがなされた。そして主イエスは葬ほうむられて、

三日目みつかめに復活ふっかつされることによって、神かみの御子みこである

ことを明らかにされたのである。神かみの御子みこが十字架じゆうじか

に死しんで下くだされた。ここに救すくいがある。

今回は主イエスが復活ふっかつされ、二人の弟子ふたりたちに現あらわ

れたことを見ていこう。

## 〔2〕 ふたりの弟子でしたち

① 悲かなしみと失望しつぼうのふたり

ふたりでしかな、二人の弟子ふたりが悲かなしみと失望しつぼうの中なかをエマオに向むかって歩あるいていた。メシヤ(救すくいぬし)と信しんじていた主イエスが十字架じゆうじかにつけられて死しんでしまったからである。

## ② 不信ふしん仰こうのふたり

この二人の弟子ふたりは主イエス共に居いた時とき、主まから何回なんかいも「わたしは十字架じゆうじかにつけられて死しぬが、三日目みつかめに復活ふっかつする」ということを聞いていた。また、他の弟子でしたちが「主イエスは復活ふっかつされた」ということも聞いた。けれども、そのことが信しんじられなかった。

## 〔3〕 共に歩あゆまれる主イエス

悲かなしみにくれている弟子でし。失望しつぼうし切きっている弟子でし。

主イエスの復活ふっかつを信しんじることのできない弟子でし。

その二人の弟子ふたりたちに対して復活ふっかつの主イエスが現あらわ

れた。そして、彼らと共に歩あゆんでくださった。

## 〔4〕 語かたってくださる主イエス

共に歩あゆんでくださる復活ふっかつの主イエスは、

二人の弟子に語りかけられた。「どうしてそんなに悲しんでいるのか」と。

主イエスはいつも私たちの悲しみや問題を知って「それを話してごらん・祈りなさい」と言ったださる。弟子たちは正直に答えました。「主イエスが復活されたと言いが、私たちにはとても信じられません」それに対して主イエスはお答えくださった。

「彼は主イエスの十字架と復活について聖書全体にわたって語られた。」主イエスはいつも私たちの疑問に答えてくださる御方である。また聖書全体から示してください。

〔5〕 目を開かれる主イエス

① しいて引き止めた

もう一つ良く理解できなかった二人の弟子は主イエスにお願いした。「私たちにもつと今の御言を教えてください。私たちは主イエスについてもつと知りたいの

です」。

主イエスはそのように願う人には、必ず喜んで時間を費やして交わってください。

② 目が開かれた

主イエスの御言葉を聴き、イエスがパンを割かれた時、二人の弟子は霊の目が開かれた。そして、それまで主イエスが語られたことを理解することができた。

目の前に居られるのは主イエスであること。

真に主イエスは復活されたのだと。

③ 心が燃えた

二人の弟子は復活の主イエスに出会い、交わり、御言を教えられたとき、心が燃えた。愛の火で熱くなった。

主イエスの復活を自分たちだけで喜んではいけない。

二人は直ちにエルサレムへ戻り「主イエスは復活された。自分たちは、その主と出会った」と他の弟子たちに証をしたのである。

[6] 結論

私たちもまた、復活の主イエスとしつかり交わり、御言を受け、心が燃やされよう。愛の火で燃やされよう。そして、復活の主イエスを証して行くのではない。心からの賛美をささげよう。

「主イエスは 私たちの 罪ゆえ十字架で

贖いの道開き 甦られた 救主

キリストは 生きておられる わが内に おられる

すべては 御手の中にある 今も励もう 主に守られ

新聖歌 257

あかし

「初めてのお祈り」

原田泰子

私はクリスチャンになって数年になります。両親が信者だったので、集会やお祈りは子供のときから接して成長してきました。

しかし、自分自身が信仰を持ってサウデー教会のメンバーに加えられるからは、お祈りが心配になってきました。もちろん、家で祈ることはしておりました。自分のこと・家族のこと・教会のことなどをお祈りします。でも、もし教会の集会で「祈って下さい」と指名されては困る。「どうしよう。私にはできない」と心配ばかりして恐れていました。

ある礼拝のとき、恐れていた礼拝の祈りを依頼されました。「神様、助けて下さい」と心でおすがりし「はい」と返事をしてしまいました。それから不思議なことに恐れが取り去られました。正直なところ、何をどのように祈ったのか、夢中だったので自分ではよく分かりませんでした。神様が導いてくださったとしか言い

ようがありません。小さな声だったと思います。最後に「主イエス様の御名によってお祈りします。アーメン」と祈れました。私にとって難しいこの「祈りの課題」に從がった時、静かな喜びがありました。「神様が祈らせてくださいました」と感謝で大変嬉しくなりました。この気持ちを丹羽先生にお話ししました。美香先生はお留守だったので後で電話でお話ししました。たまたましいい祈りですが、第一歩を踏み出すことができました。本当に感謝です。神様が「人前での祈りの第一歩を踏み出す勇氣を与えてくださいました」と信じます。それからは、お祈りが当たっても以前のような心配とか恐れはなくなりました。まだ満足な祈りはできませんが、素直な気持ちでお祈りをさせていたきたいと願っています。

「御霊も弱い私たちを助けてくださる。なぜなら、私たちはどう祈ったらよいかわからないが、御霊みずから、

言葉に表せない切なるうめきをもって、私たちのために執り成して下さるからである」ロー8:26

「新年にいただいた御言」 沢里利代子

新年を迎えるに当たって忙しい中を美香先生は、皆に「御言の入った白い小箱」を礼拝に（一月一日）出席した一人一人が、今年の御言として取るようにと、箱に入れてまわして下さいました。

私がおもらった御言は詩篇「10」節

「さあ、元氣を出しなさい。もし、神様に信頼しているなら、雄々しく立ち上がりなさい」

でした。戴いた時は本当にびっくりしました。なんと神様は私の心を見抜いておられる御方であるうか、と驚かされました。

わたしは今、確かに元気を失くしている状態でした。

その私に「元気を出しなさい」と励ましてくださったのです。「どんなことが起きても、私を信じて待ち望みなさい。わたしがついていくから、心を強くして、勇敢に立ち上がりなさい」と励まして下さっていることに、真に真に涙が出るほど嬉しかったのです。心沈ませていた私に、元旦から励ましの御言を頂き、ただただ感謝でした。

今年もどんなことが待構えているか、私には判りません。神様だけがそれをご存知の上で私にくださった今年の目標の「この御言」。

私を常に強めてくださる神様に心から感謝いたします。今日も主の御名をほめたたえます。アーメン

## 「勘違いだった受洗日」 白井信子

「主は私たちのために生命を捨ててくださった。それによって私たちは愛ということを知った。」

一九七七年十二月四日 清水誠一

と、ジアデーマのサント・エステボン教会（現・ジアデーマ教会）で受洗した記念のサインがありますから、私はかなり勘違いして洗礼日を覚えていたようです。

なぜなら、今まで受洗日を一九七八年十二月と言っていたのですから。清水牧師の字は達筆すぎて、ヨハネ何章何節が、読み取れませんが、この御言は教会で度々耳にしていますので、なじみ深いものです。

しかし、何しろ自分の受洗日を忘れるぐらいですから、その信仰たるや如何にデタラメであったか言わずもがなです。

清水先生が存命中は、未だまじでしたが、私が出稼

ぎに行き、留守の間に恩師は亡くなり、その後は、すっかり教会に遠くなくなっていました。清水先生にいたいた「御言の目めぐり」二十四日の「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事に感謝しなさい」【第1・五の15-18は、好きな御言です、ここが開けられたまま二十年程が経ってしまいました。

どんな時も就寝前の祈りと外出前の祈りは殆ど欠かしたことがありませんでした。

就寝前の祈りは「私の罪の赦し。長男次男が主の御名を知ることができまますようお導き下さい。そして彼らの健康のために祈り、友人知人、全世界の被災地の人々のため。全てのテロリストがテロを止め。宗教間の争いが無くなるように。北朝鮮がノルマルな国になるように。核保有国がこれを正しく使用しますように。地球温暖化について総ての人間が正しい知識を持ち成すべき事を知り地球を守る努力をしますように」

と祈っておりました。しかし、この毎晩の祈りの中に私自身のために「何かをして下さい」と祈ったことはこの十数年何一つないことに気づきました。しかも、この祈りの言葉とて、決まりきったムニヤムニヤ言葉と言えなくもなく、私の信仰は実に、希薄なものと言わざるを得ません。

弓場牧師の言葉に「イエス様の衣の裾をしっかりと握って離れたらいかん」とありました。いい言葉と思いがら、これも実行したつもりであっても「どうかなあー」です。

昨年、後藤弥生さんに教えられてサウデー教会にてもたれていた連合女性会主催の研修会に出席しました。それからこの教会に出席するようになりました。丹羽昭男・美香両牧師の爽やかで実直な説教の魅力に惹かれて、私にしては、わりと真面目に礼拝に参加させていただき、はや一年になろうとしています。

昨年さくねんのナタールにジアドーマ教会てんかいから転会てんかいもいたしました。

自分じぶん勝手かたばかりばいしますが、続けつづられる形かたちで礼拝らいはいに励はげまさせていただこうと願ねがっています。

「主しゅよ」お任せまかします」  
向高悦子むこうがくえいこ

わたしは先に長男・夫ちやうなん おつとそして昨年さくねん、親おやのように思おもっていた姉あねを天てんに送おくりました。その他た、親したしい身内みうちの者ものたちを多く天てんに送おくりました。周まわりを見回みまわすと心細こころほそく、ひとりぐ一人ひとり暮くらしの私わたしは寂さびしくなります。もちろん次男じなん家族かぞは私わたしを良く訪ねてくれますし、孫娘まごむすめは私わたしの慰なぐさめです。しかし、先々さきさきのことを色々いろいろ考かんがえて心こころが騒さわぐことがありました。「病びょう気きになつたらどうしよう。」「眼めが見みえなくなつたら大変たいへんだ（現在げんざい、眼めの治ちりよう療りょう中ちゆう）」「独ひとりしか

いない息子むすこに無理むりな負担ふたんになつては・・・」などなど。しかし、三月さんがつ第一だいいち礼拝らいはいの説教せつきやうで用もちいられた御言みことばにより大変たいへん力ちからづけられ、恵めぐまれ、平安へいあんが与あたえられました。その御言みことばは 詩うた142・ひです。

「主しゅよ、私はあなたに呼よびわります。あなたはわが避さけ所どころ、生いける者ものの地ちでわたしの受うくべき分ぶんです」  
もう何も心配しんぱいしません。

どんなことかみさまも神様かみさまにお任せまかいたします。  
神様かみさまは私わたしの全すべてをぞんじ存知ぞんじだからです。

- 沖おきの波なみ 走はしりやせまり来きて 足あしぬらす
  - 後うしろ髪がみ 首筋くびすじ見みせて 夏なつの風かぜ
- 益本藤子ますもとふじこ



● 肌かわき 老いの夕暮れ 塗る気なし  
● ベルチオルガ やしの実落とす 朝仕事

白井美恵

● 春秋に 富む身となりて 冬たのし  
● 通読の みふみを開く 冬の窓

松井明子

● 余生をば 神に守られ 秋日和  
● 秋晴れや たどる道の辺 軽やかに  
● 口々に 何を呟く ぺりキート

おたより アマンバイ教会 吉崎靖子

〔二月八日の礼拝にアマンバイ教会より四名の姉妹方が出席、昼食を共になし、よき交わりの一時を過ごされました。代表して吉崎姉からサウーデの皆様にお礼状を頂きました。抜書きをお載せします。美香〕

この度は夢のブラジル各教会を訪問する旅が許され、サウーデ教会で牧会をしていらっしやる丹羽師夫妻に十二年ぶりにお目にかかることができました。感激しました。(中略) いつも週報で読んでいたけど、実際にお目にかかり、高齢の方々がお元気に活動しておられて、「すごいなー」と思いました。

私も七十歳。アマンバイ教会も今年で創立五十周年と言う事で押し出されるようにして、秋山姉に引率されて旅をすることができました。

いろいろべんきよう  
色々勉強になりました。多くの方の愛のおもてなしに

感謝すると同時に、私たちのできることは何か？

考える時でもありました。

お世話になりましたサウーデ教会の皆様にも、どうぞよ

ろしくお伝えください。

お昼のお食事もありがどうございました。

当教会の創立記念集会（七月）のためにお祈りく

ださいませ。（後略）

「こんにちは！ 赤ちゃん」 丹羽 美香

二月二十九日・夜八時半、三男夫婦、長男そし

て私たち夫婦は赤ちゃん誕生の期待を胸に病院に

車を走らせた。やつと四十歳近くになって結婚した

次男に第一子女兒（ジュリア恵美）の誕生間近の電話

を受けたのである。「今、産室に入った」と。しかし、

しかしである。二月二十九日。オリンピックの年。

この日は四年に一度しか来ない日。閏年！

彼女の来年の「歳の誕生日は？。おばあちゃんって

（私のこと）仕方がない者だ。あれこれと心の中に思う。

医師がきつと日付を直してくれるのかな。などなど。

ところがである。なかなか産まれない。産室に近い

待合室で一行五名はウロウロ待つこと三時間あまり。

十一時半になって産室にいる次男から携帯電話に連

絡が入った。「もう直ぐだそうだ」

自然出産だから時間がかかるのである。

その時、私は思った。「今まで待つて十一時半になっ

た。あと三十分すると零時、零時を過ぎれば三月」

日である。そうだ、神様にお祈りしよう。昔、ヨシ

ユアはアモリ人と戦ったとき、「日よ、月よ止まれ」

と祈ったではないか。私は「時よ、進め」と、祈ろう」

真まことに身勝手みがってなことと思おもった。だが、おばあちゃんおばあちゃんの孫まごに對する無茶むちゃな願ねがいであつたかもしれしない。御心みこころならばと、とにかくそこに居おる息子むすこやお嫁よめちゃんに「お祈りする」と宣せんげん言おつとして夫おつとと祈はりつた。私はそこに掛かけられてゐる時計とけいの針はりをにらむようにして、母親ははおやも胎児たいじも順調じゆんちようにこの日ひを迎むかえられたことをまず感謝かんじやして祈り始つづめた。そして祈り続つづけた。

セリーナさんなん(三男つよの妻はんなじかんは、産室さんじつの廊下ろうかのドアかのじよに何度なんども耳みみを寄よせていた。半時間はんじかんほどして彼女かのじよが言いつた。

「泣なき声こゑが聞きこえるよ」。私は時計とけいの針はりが確たしかに零れいじ時わすを僅すかに過すぎてゐることを確認かくにんした。「アーメン」しばらくして、次男じなんが看護服かんごふくを着すがたたま姿あらわを現あらわした。なんともいえない素敵すてきな笑顔えがおだ。

「十二時二分に産うまれたよ」

「あー、神様かみさまありがとうございます。こんな我わが俵たまな祈いのちりにもお答こたえいただき、出産しゅつさんを待まつていた皆みんな

にも、出産日しゅつさんびを安心あんしんさせてくださいました。感謝かんじやいたします。」

それから私わたしたちは新生児室しんせいじしつに行いつた。さすがにこの日ひ(二十九日にじゅうくにち)に生うまれる赤あかちゃんあかちゃんは一人も居いなかつたらしい。空からつぽの新生児室しんせいじしつにわが孫まごだけが窓辺まぜべの赤あかちゃんベツトはだかに裸はだかで、手足てあしを元氣げんきに動うごかしている。看護士かんごしさんたちは暇ひまそうに話はなし合あつていた。

「こんにちは。イヤイヤ、おはようかな? 恵美えみちゃん。はじめまして。あなたは三月一日午前十二時二分しゅがつにちつちゅうじつ出生しゅつしょう。おめでとう!。神様かみさまのお計はからいでこの時間じかんにこの世よに生せいを受けたのよ。それだけママが何時間なんじかんも生うみの苦くるしみをしたことを忘わすれないでね。・・・」

私わたしたちは「二十九日にじゅうくにちでなくて良よかつたね」と話はなしながら家路いえじについた。

「明日あしたはエンブーラの集會しゅうかいだ」と夫おつとは満足まんぞくそうに

つぶや しんしつ はい  
咳いて寢室に入っていた。

ねむり つごぜん  
眠りについたのは午前二時になっていた。

なにごと おも わざら

「何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもつて祈りと願いをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい」ピリピ・4:6

### ほんねんど じよせいぶ 本年度・女性部による集会の紹介

ほんかくてき ことし しゅうかい はじ まこと  
三月より本格的に今年の集会が始められ、真に感謝の限りです。少人数の集まりですが、家庭的でどんな事でも質問でき、話し合いも気安くできます。もちろん、あかしや御言の学びもあります。

みなさま きがる あか しゅうかい しゅっせき  
皆様もお気軽にお近くの集会に出席して下さい。

かくしゅうかい しょうかい  
では各集会について、ご紹介いたします。

### ふじきけ あつ 藤木家の集まり(サウーデ)

まいつきだいげつようび ごごにじ  
毎月第一月曜日 午後二時より

しゅうかい しゅっせきしや  
司会は出席者のもちまわりです。

げんざい  
現在「ヨハネの手紙」を学んでいます。

ふじきけいし かいご  
藤木兄弟の介護をされている方が出席しています。

かのじよ すく  
います。彼女の救いのためにお祈りください。

あつ かくじ おし めぐ  
集まりでは各自、教えられたこと、恵まれた証などもなされます。

あかし  
証などもなされます。

### せいけんきどうかいき きょうかい 聖研祈禱会(教会にて)

まいしゅうすいようび ごご  
毎週水曜日 午後二時より

しゅうかい じゅんぱん ぜんいん  
司会は順番に全員がしています。

ことしだい かい しゅうかい  
三月七日・今年第一回の集会において、

しゅっせきしやぜんいん あかし  
出席者全員が証されました。「一言づつ」

ようてん しる  
要点だけを記します。

平尾洋子姉(91歳)「もう天国が近くなってきました。」

一日一日を大切にしたい天国に向かって歩んでいき

たいです」

白井美恵姉(88歳)「先日訪問した百二歳になる方が、

御言に聞き入っている姿を見て、自分もそうあり

たいと思いました」

石田善子姉(88歳)「今年の元旦礼拝に出席。その時

に与えられた御言『死ぬまで共にいて下さる神』

の御言を毎日声に出して読んでいます。この御言

は、私にピッタリ、信じて歩みます」

須山フミ姉(88歳)「今年も聖研祈祷会にできるだけ

出席して御言をしっかり聞き祈っていきたくです」

川野節子姉「御言をしっかりと聞いて、主に従い信仰

的に成長したいと願っています」

土屋礼子姉「夫を天国に送り、今ひとり暮らしとな

りました。ゆっくりと御言を読む時間があります

ので、もっと励みたいと思っています」

中島ますみ姉「元来、人の集まりに入っていくのが

苦手でしたが、今年からは積極的に集会に出席

して恵まれました」

藤木耐子姉「年を重ねて、いつ死が来ても不思議では

ないが、死に対する恐れがなく、日々、平安に生き

ることができていることを感謝しています」

長谷川美代枝姉「二人の息子たちも間もなく結婚して

家を出て行き、夫と二人の生活になりますが、母

を我家に迎えて共に過ごしたいと願っています」

吉加江紀子姉「今年に家族(夫と娘)の救いのため

に祈り、信仰に導きたいと切に願っています」

菅原ミヨノ姉(88歳)「年を取るに連れて、忘れ易く

なってきましたが、御言をしっかりと学んで覚え

ていきたいと願っています」

菊谷系子姉(88歳)「昨年は元気であった息子の急死

という大きな試みに遭いました。私もいつ召されてもいい年です。いよいよ共に居て下さる神様に目を向けて、一日一日を歩んでいきたいです。許される限り集会に励みたいと思っています」

山田初子姉(88歳)「愛の神様は恵みと共にムチを当てられる時があります。私も色々な道を通ってきました。しかしこんな私を今日まで放さないで、憐れみをもって導いて下さっていることに、心より感謝いたします」

- 大園家の集まり(ジャバクアラ) 今年から開始。
- 毎月第二火曜日・午後二時
- バスのサウーデ・ポントから約四十分余りかかりますが、大園兄が家の前でお迎え下さいます。新しい方のためのお話を準備しています。

### 森家の集まり(アナ・ローザ)

- 毎月第三木曜日・午後二時
- 「ヨブ記」の学びをしています。
- 証もあり、司会は持ち回りです。
- お茶の時には信仰的質問や身の上話、他宗教についてなど色々な話題で賑わいます。
- 往復の足は地下鉄ですが、いつも超高齢者のグループなので座席にゆつくり座れます。感謝!

紙上演道 「天国への招待」 著 滝本 明

第一回 「人生とは何でしょう」  
私はイエス・キリストを救主として信じるまでは、

いつも人生とは何かを悩んでおりました。朝起きてご飯を食べ、一日働き、勉強し、夜が来てまた朝が来て、十年一日のような、砂をかむような生活の中で「こんなに勉強してもいつかは死んでしまう。たとい仕事で成功しても死んだら終わり。どんなに金を儲けても死んだら全てをこの地上に残していかななくてはならない。しかし、生きなくてはならない。生きるからには、命をかけて働く仕事が欲しい」と、いつも思っていた。東京に住んでいて、夜学の同級生から「君の顔は牧師さんになると似合いそうだ」と言われたのがきっかけでキリスト教会に行くようになり、一九四九年二月二十日、イエス・キリストを私の神、救主と信じてることができました。十九歳の時です。ある日、ヨハネ三ノ十六の御言で目が開かれました。「神は、実に。その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者がひとりとして滅びることなく、永遠

のいのちを持つためである」ここには、イエス・キリストを信じる者がひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。と断言されているではありませんか。その時すでにイエス・キリストを信じていた私は「信じる者が永遠のいのちを持つためである」ということは、主イエスを信じている私にも、永遠の命が与えられている。何百年。何千年という限られた期間ではなく、死も、苦しみ、悲しみも飢えもない神の国天国で、永遠に生きることができるとわかり、心の虚しさ、死の恐怖から解放されました。その時以来、人類を罪と悪魔と死から救い出すために、人となられ、全ての人の罪を赦すために、身代わりとなられて十字架に死に、三日目に死の力を打ち破り死人の中から甦られた主イエス・キリスト様を伝えるために、五十数年間、命をかけて宣教に励んできました。今、はつきりと人生とは何か、断言できます。

人の三十、四十、五十、六十、七十、八十年において、  
その人生は、永遠の命を持つかそれを拒むか、天国に行  
くか地獄に行くかを選択する時です。

全能の神は、あなたが救主であるイエス・キリストを  
信じて永遠の命を持つように、天国の市民権をもつこと  
ができるように招き続けていて下さるのです。

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの  
家族も救われます」と聖書（使徒行伝十六ノ三十一）にあ  
りますから、先ずあなたが主イエス・キリスト様を信じて、  
天国行きの切符を手してください。  
そうすれば、家族全員が救われるのです。

## 個人消息と報告

● 体の痛みで苦しむ闘っている姉妹方のために  
お祈り下さい。

● 弘瀬サト姉 出山富美子姉 芥川美恵子姉  
体の弱さのため礼拝に出席できなくなつた方。

● 井上房子姉 吉川郁子姉 渡辺早苗姉

● 高齢のため独りでは教会に来られなくなつた方。

朝倉 笑姉 梅崎時枝姉 岡田時子姉

河本八重子姉 高野タケ姉 鳥居静子姉

● 富沢キヨシ姉 田中八重野姉 浅沼よしえ姉

● 山田初子姉が三月二十五日で九十歳をお迎えに  
なり、二十四日に鳥取県人会館において「卒寿の  
祝い」がもたれました。おめでとうございます！

● 原田泰子姉は三月四日に日本より孫娘さんが  
來伯され、しばらく楽しいお交わりの時をもた



れました。

● おほらどもこ  
小原知子姉が「子ども会」を通して若いお母さん  
がた みらび  
方を導かれています。その方々が礼拝に出席  
できますようにご協力ください。(子守など)

● じゆなんしゆうせいかい  
受難週聖会が四月五日・六日とエンブーラ教会  
おこま  
にて行われます。(週報にて報告済)

● 四月は「むつみ会」があります。紙人形を作り  
ほうそうし  
ますので「包装紙」(プレゼント用の紙)を集めて  
おいて下さい。

みんなでかんがえてみましょう。  
きょうかいせいかつ れいてま、せいちやう  
教会生活が霊的に成長し、互いの交わりも楽し  
よみこも  
くあり、また喜びを持って奉仕できるために私たち  
ほうし  
は「何をし、どうあるべきか」 みなさま  
皆様からのご意見や  
いけん

ていあん やくいん  
ご提案を役員のだなたにでもお聞かせ下さい。

ほうしふ すこ  
奉仕部では少しでもその御期待にお答えできるよう  
ほうこう  
な方向へ・・・と願っています。

いま つぎ  
ただ今、次のような提案が出されています。

● まいつき  
毎月のたんぽぽ会の昼食は前もって今年中  
こんだて  
の献立を作っておくのはいかがなものですか。  
● かいどう ざぶとん  
会堂の座布団は、たまには日光に当てるのはど  
うでしょうか。

● れいはいまえ  
礼拝前のコーヒータイムのお茶菓子は自由献品  
なな な  
になっていますが、何にも無い時もありますよ  
ね。話し合ってください。

これらの提案に対しても、ご意見をお寄せ下さい。

「私が主を求めると、主は答えてくださった。」

(詩篇34)

「ああ 私たちは なんとしばしば  
平安を 失い

ああ なんと不必要な苦しみを

負うことでしょうか。

それはみな 私たちが

すべてのことを 神の前に

いのりのうちに

携えないからです。

(賛美歌「いつくしみ深き」の原詩)

### 編集後記

本年第一号(272号)を、お読みいただける

ことを感謝いたします。一ページにあつた巻頭言

が二ページになりました。その訳は目次がそのペー

ジにあると、「巻頭言のメッセージを読んで

途切れるような感じがする」という提案があり、考え

相談の結果、今回のようなスタイルに変えました。

「会報」の内容についても更に向上を願ひ、親しま

れるものにしたと思います。ご意見をお聞か

せ下さい。また、記事をお寄せ下さい。(美香)